

第 2.2.1-1 図 燃料加工建屋地下 3 階平面図 (T. M. S. L. 35. 00m) (1/2)

～第 2.2.1.9 図 燃料加工建屋 B-B 断面図

【燃料加工建屋】

主要寸法* ¹ (m)		許容範囲 (mm)	根拠	
たて	87.30	±40mm	JASS 5N の規定による。	
横	88.30	±40mm		
高さ* ²	地上 22.50 地下 23.47	±30mm		
壁厚さ	1.30～2.50	+15mm -5mm* ³		
基礎	たて	87.30		±40mm
	横	88.30		±40mm
	高さ	2.7		+規定せず -5mm

注記 *1：主要寸法は，設工認申請書記載の公称値を示す。

*2：T. M. S. L. 55.00m を基準とする。

*3：航空機防護上の防護部材は，当該部位の断面寸法の許容差の負の範囲を許容しない。

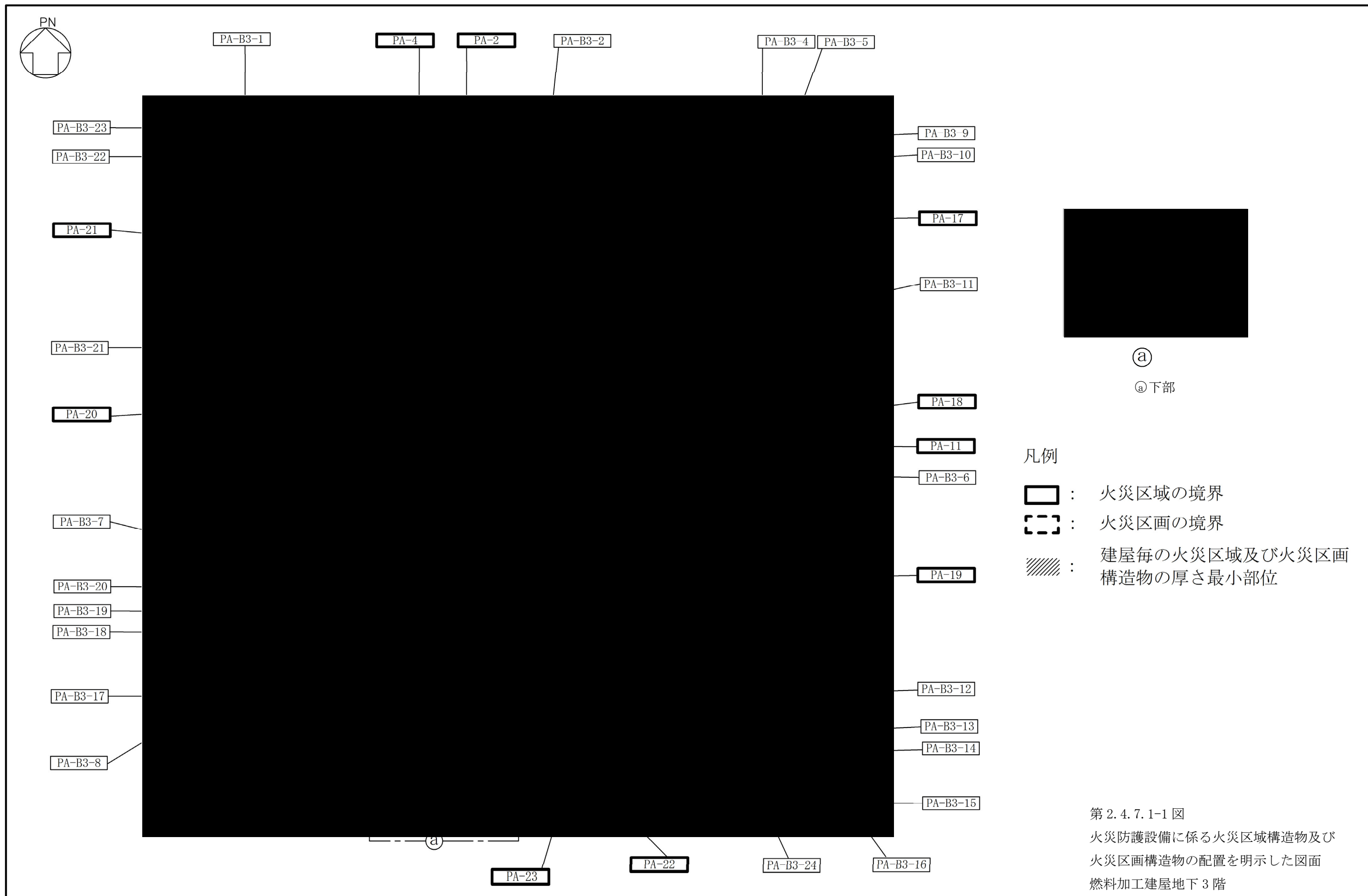
【建屋遮蔽(燃料加工建屋)】

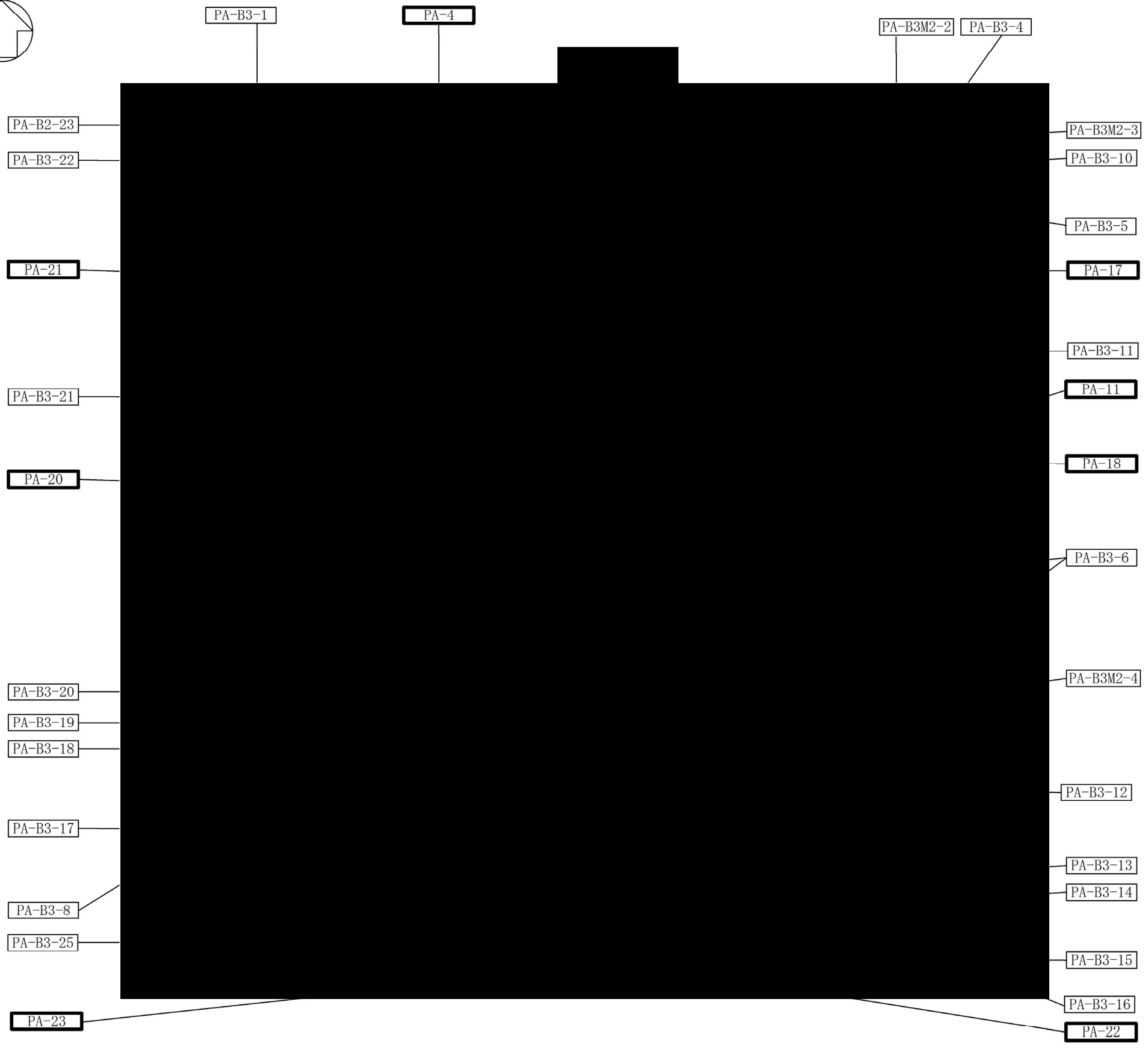
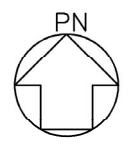
主要寸法* ¹ (m)		許容範囲 (mm)	根拠
壁及び床	—* ²	+15mm -5mm	JASS 5N の規定による。

注記 *1：主要寸法は，設工認申請書記載の公称値を示す。

*2：寸法は場所により異なるが，許容範囲は同一であるため記載を省略する。

V - 2 - 4 配置図

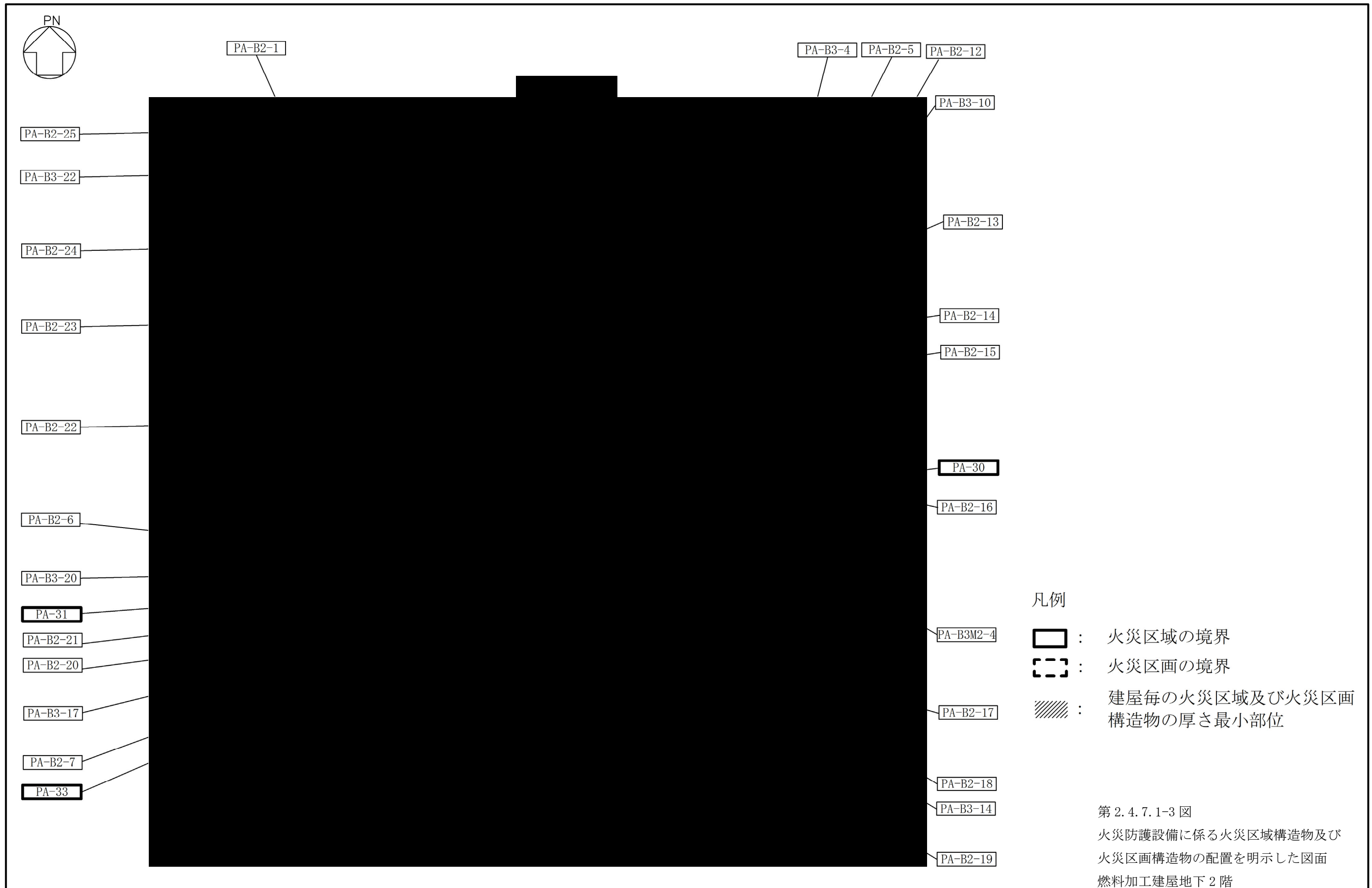


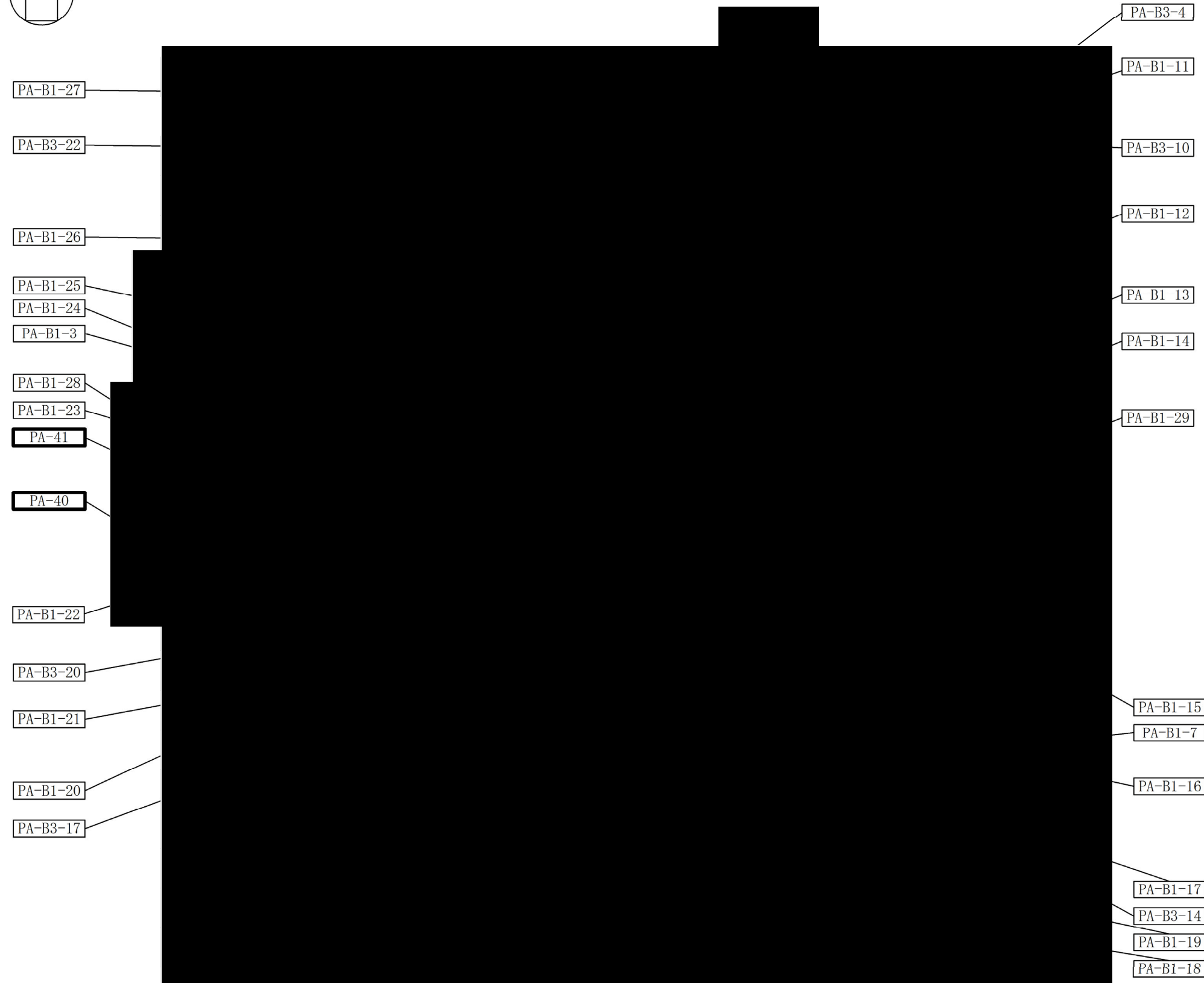
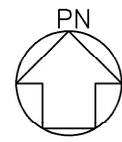


凡例

- : 火災区域の境界
- : 火災区画の境界
- : 建屋毎の火災区域及び火災区画
構造物の厚さ最小部位

第 2.4.7.1-2 図
火災防護設備に係る火災区域構造物及び
火災区画構造物の配置を明示した図面
燃料加工建屋地下 3 階中 2 階








Ⓐ

Ⓐ 上部

凡例

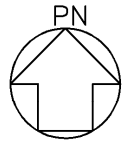
-  : 火災区域の境界
-  : 火災区画の境界
-  : 建屋毎の火災区域及び火災区画
構造物の厚さ最小部位

第 2.4.7.1-4 図
 火災防護設備に係る火災区域構造物及び
 火災区画構造物の配置を明示した図面
 燃料加工建屋地下 1 階





第 2.4.7.1-6 図
火災防護設備に係る火災区域構造物及び
火災区画構造物の配置を明示した図面
燃料加工建屋地上 2 階



PA-R-1

PA-1-13

PA-B3-20

PA-R-2

PA-R-3

凡例

□ : 火災区域の境界

□ : 火災区画の境界

第 2.4.7.1-7 図

火災防護設備に係る火災区域構造物及び
火災区画構造物の配置を明示した図面
燃料加工建屋塔屋階

第2.4.7.1-1図 火災防護設備に係る火災区域構造物及び火災区画構造物の配置を明示した
 図面 燃料加工建屋地下3階～ 第2.4.7.1-7図 火災防護設備に係る火災区域構造物及び火
 災区画構造物の配置を明示した図面 燃料加工建屋塔屋階

主要寸法 (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
燃料加工建屋	300* ¹	150mm以上* ² * ³ * ⁴	—

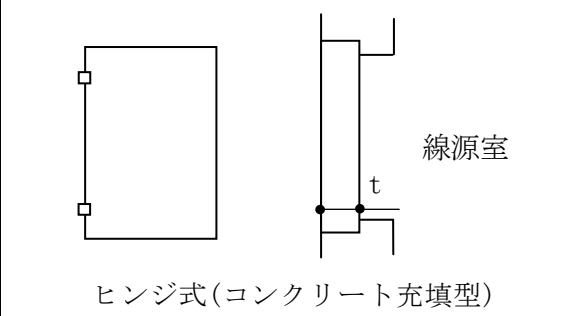
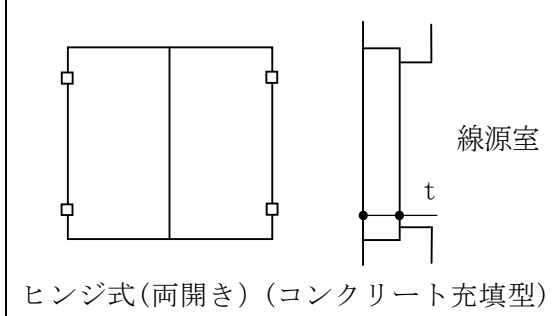
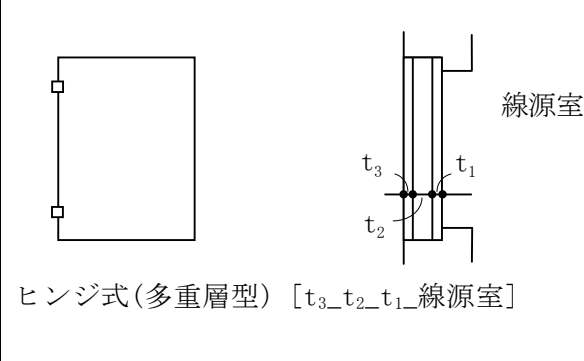
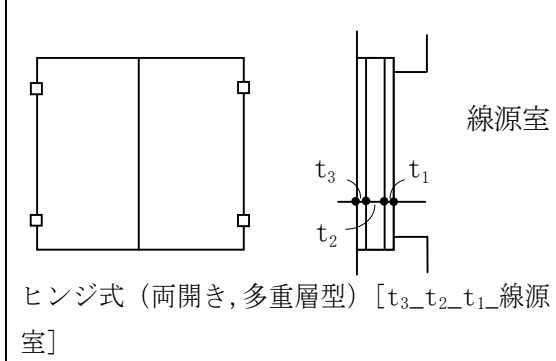
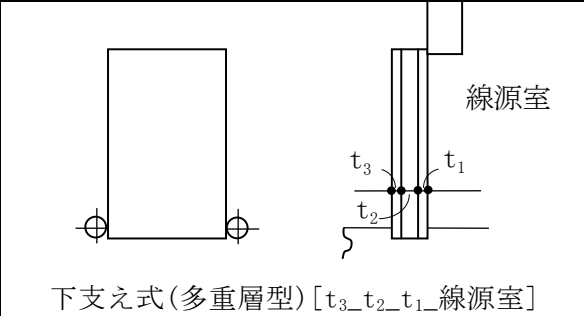
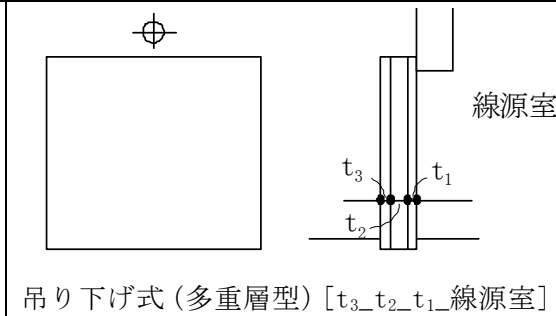
注記 *1：公称値のうち最小のものを示す。

*2：火災区域構造物及び火災区画構造物の耐火能力として150mm以上とする。

*3：出典 2001年版耐火性能検証法の解説及び計算例とその解説（「建設省告示第1433号耐火性能検証法に関する算出方法等を定める件」講習会テキスト（国土交通省住宅局建築指導課））

*4：出典 米国NFPA Handbook Twentieth Edition

V - 2 - 5 構造図

タイプ	
 <p style="text-align: center;">ヒンジ式(コンクリート充填型)</p> <p style="text-align: center;">D-a</p>	 <p style="text-align: center;">ヒンジ式(両開き)(コンクリート充填型)</p> <p style="text-align: center;">D-b</p>
 <p style="text-align: center;">ヒンジ式(多重層型) [t₃_t₂_t₁_線源室]</p> <p style="text-align: center;">D-c</p>	 <p style="text-align: center;">ヒンジ式(両開き, 多重層型) [t₃_t₂_t₁_線源室]</p> <p style="text-align: center;">D-d</p>
 <p style="text-align: center;">下支え式(多重層型) [t₃_t₂_t₁_線源室]</p> <p style="text-align: center;">D-e</p>	 <p style="text-align: center;">吊り下げ式(多重層型) [t₃_t₂_t₁_線源室]</p> <p style="text-align: center;">D-f</p>

第2.5.1.1-1図 成形施設 燃料加工建屋の構造図 遮蔽扉(燃料加工建屋)

(続き)

遮蔽扉の遮蔽設計上考慮する厚さ及び材料

遮蔽扉 番号	構造	厚さ (mm)	材料	隣接部屋番号	
				線源室	線源室外
<D1>	D-b	340	普通 コンクリート	125 (粉末調整第5室)	123 (粉末調整室前室)
<D3>	D-a	490	普通 コンクリート	315 (燃料棒加工第2室)	313 (分析第2室)
<D4>	D-a	490	普通 コンクリート	319 (スクラップ処理室)	313 (分析第2室)
<D5>	D-a	290	普通 コンクリート	316 (燃料棒貯蔵室)	330 (燃料棒受入室)
<D6>	D-c	t ₁ :78	鋼材	103 (貯蔵容器一時保管室)	104 (貯蔵容器受入室)
		t ₂ :292	ポリエチレン*		
		t ₃ :35	鋼材		
<D7>	D-a	300	普通 コンクリート	110 (粉末一時保管室)	117 (粉末調整第3室)
<D8>	D-a	300	普通 コンクリート	110 (粉末一時保管室)	118 (粉末調整第7室)
<D11>	D-a	300	普通 コンクリート	119 (ペレット一時保管室)	116 (ペレット加工第4室)
<D12>	D-d	t ₁ :43	鋼材	327 (燃料集合体組立第1室)	330 (燃料棒受入室)
		t ₂ :115	ポリエチレン*		
		t ₃ :43	鋼材		
<D13>	D-e	t ₁ :17	鋼材	326 (燃料集合体組立第2室)	329 (燃料集合体部材準備室)
		t ₂ :180	ポリエチレン*		
		t ₃ :43	鋼材		
<D14>	D-d	t ₁ :63	鋼材	413 (燃料集合体組立クレーン室)	423 (地下1階廊下)
		t ₂ :165	ポリエチレン*		
		t ₃ :34	鋼材		
<D15>	D-f	t ₁ :5	鋼材	574 (貯蔵梱包クレーン室)	568 (輸送容器検査室)
		t ₂ :145	ポリエチレン*		
		t ₃ :31	鋼材		

注記 * : ポリエチレンは鋼材により被覆する構造とする。

第2.5.1.1-1図

成形施設 燃料加工建屋の構造図

遮蔽扉(燃料加工建屋)

遮蔽扉番号<D1>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	346	+規定しない -6	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

遮蔽扉番号<D3>, <D4>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	492	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

遮蔽扉番号<D5>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	292	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

遮蔽扉番号<D6>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	80	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	300	+規定しない -8	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	38	+規定しない -3	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

(続き)

遮蔽扉番号<D7>, <D8>, <D11>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	306	+規定しない -6	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

遮蔽扉番号<D12>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	45	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	120	+規定しない -5	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

遮蔽扉番号<D13>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	19	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	180	+規定しない -0	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	45	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

(続き)

遮蔽扉番号<D14>

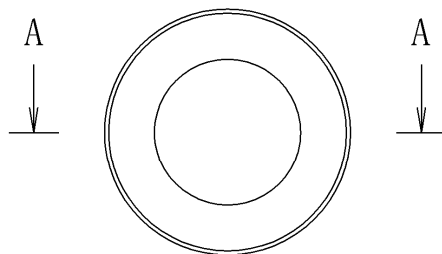
主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	65	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	165	+規定しない -0	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	36	+規定しない -2	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。

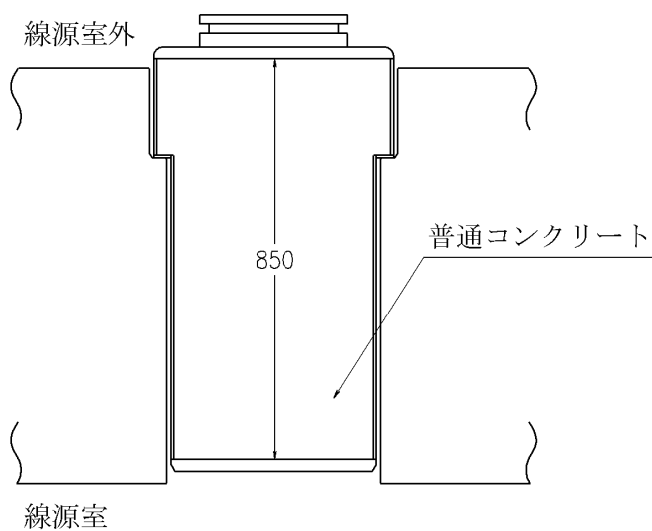
遮蔽扉番号<D15>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽扉 (燃料加工建屋)	5	+規定しない -0	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	145	+規定しない -0	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準
	31	+規定しない -0	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 * : 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す



平面図



A-A断面図 (単位：mm)

特記事項

1. 設置場所は第2. 2. 1-2図 燃料加工建屋地下3階中2階平面図(T. M. S. L. 38. 30m) (1/2)に<H1>で示す。
2. 遮蔽蓋は、開閉のため繰り返し取り扱うことから、コンクリート防護のためステンレス鋼により被覆する。

第2.5.1.1-2図

成形施設 燃料加工建屋の構造図

遮蔽蓋(貯蔵容器一時保管設備)

遮蔽蓋番号<H1>

主要寸法* (mm)		許容範囲 (mm)	根拠
遮蔽蓋 (貯蔵容器一時保管設備)	860	+規定しない -10	製造能力, 製造実績を考慮した メーカー基準

注記 *: 主要寸法は, 設工認申請書記載の公称値を示す。